

瑞穂鮎城「和やか」ミステリーツアー

2024年7月8日

初めての<ミステリーツアー>参加者37名で企画者以外の方全員、当日の朝まで旅行先が解らない楽しみ
のツアーとして企画。バスツアーは例年6月の催行でしたが都合により今年は7月に実施。

当日、北陸の天候は名古屋より3度ほど低く一日中曇りがちで日差しの時間も少なく、最近の猛暑の中では少しは過ごし易い天候でした。

全員が熱中症にも成らず無事に帰れたことに感謝しています、有難うございました。
和紙の体験で作成したハガキを、10月の「趣味の作品展」に出展予定です。

【旅行行程 (休憩場所は未記載)】

紫式部の感性に触れる 越前物語

瑞穂区役所 ⇨ 一宮 IC ⇨ 武生 IC ⇨ 越前和紙の里「パピルス館」(和紙の紙漉き体験)
越前そばの里 ⇨ 武生 IC ⇨ 今庄 IC ⇨ 鶴文寿司(昼食) ⇨ 紫式部公園散策
⇨ 光る君へ「越前」大河ドラマ館(見学) ⇨ 武生 IC ⇨ 一宮 IC ⇨ 瑞穂区役所

越前和紙の里「パピルス館」

和紙の紙漉き体験



- ・ハガキ2枚サイズの網状の枠に、紙の原料を漉き入れて前後に揺らし、これを数回繰り返して紙の厚さを整える。



- ・次に柄付け草花の押し花を載せて、その上に再度紙の原料を薄く流し込んで、押し花を固定。



- ・紙漉きを終え、押し花などの柄付けも終わったら好みに合わせて着色します。
- ・色はイエロー・ピンク・ブルー・金箔など上からたらし込みにて着色します。



- ・全てが完成したら、水分を取り除く工程です。
- ・水分吸引機の上に枠ごと載せて、下にセットされた吸引機により、和紙の水分をしっかりと取り除き、その後乾燥機にて乾燥して完了。
- ・所要時間、約30分程の工程でした。

越前和紙は、楮・三椏・雁皮などの植物の韌皮繊維を主原料に、溜め漉き(ためずき)、トロロアオイの粘液を加えた流し漉き(ながしずき)等により、手漉きを中心に作られています。また機械すき、紙加工も行われています。

伝統の越前奉書紙をはじめ、鳥の子紙など、小さな名刺やハガキから、世界一の大きな絵の紙までいろいろな和紙が作られています。和紙で作られた、お土産コーナーも併設されています。

・紫式部公園

・源氏物語の作者、紫式部が生涯でただ一度、都を離れて暮らした場所、越前市。越前国司となった父、藤原為時とともに訪れ、一年余りを過ごしたといわれる。これを記念して作られた紫式部公園は池をめぐらし、寝殿造の釣殿をしつらえ、紫式部が生きた平安時代の趣を今に伝えている。公園に隣接してある「紫式部と国府資料館」では、紫式部に関する資料を見ることが出来ますが、あいにく休館日の為入館できませんでした。



・光る君へ「越前」大河ドラマ館（見学）



紫式部像

金色の紫式部像。文化勲章を受章した彫刻家・圓鏑勝三（えんつばかつぞう）の製作。高さ3mの像の目線の先には彼女が和歌にも詠んだ日野山の方向を望んでいるとの事でした。



しきぶきぶんミュージアムでは、衣装や小道具、限定映像などを見ることができました。

「光る君へ 越前 大河ドラマ館」や、紫式部が暮らした越前の文化や歴史が紹介された歴史品の展示、お土産の販売店「光る越前SHOP」があります。千年の時を超え、今なお愛される世界最古の長編「源氏物語」を書きあげた女性、紫式部。彼女が懸命に生き、選んだゆかりの地で彼女の過ごした時間や作品に想いが感じられます。